

静岡県板 ニュース

発行所 静岡県板金工業組合

〒420-0034 静岡市葵区常磐町2丁目12番4号
(タウンコート常磐町 1F)

TEL. 054-252-2418

FAX. 054-252-2430

発行人 松浦 源

第五十三回 通常総代会の 開催



平成二十九年度の第五十三回通常総代会は、五月二十五日(木)静岡市内のクーパーホール会館において開催された。総代会には、代議員、役員、支部長、青年部員並びに来賓、八十六名の出席のもと、十三時に野村副理事長の開会の辞に始まり、熱心かつ真剣な審議がなされた。

板金業界は、長期金利の低減など有利な要因はあるものの、引き続き受注機会の減少、資材価格の高騰、実施工単価の低落傾向等により、経営環境は依然として厳しい状況にあるが、このような時こそ長年に亘って培われた組合員相互の連携、協調、団結精神を一層強固なものとして、その時々々の経済情勢に対処してゆく必要が有ると痛感いたしますとの感想を述べ、そのためには習得している技能の更なる研鑽に努め、更には、仕事を取るための積極的な営業活動や経営の在り方の再検討を行うなど、新たな意識で行動することが求められるとの見解を述べた。

また、我々の喫緊の課題として、後継者の育成確保の問題があり、今後の組合組織や、この業界を担っていく青年層に対して、今まで以上に親組合としての連携、支援を強化していく必要があること、などを出席者に訴えた。

最後に、3年後の平成三十二年の建築板金業者全国大会が、この静岡市で開催されるので、組合として、この全国大会の開催に向け組合員一丸となって取り組んでまいりますので、ご臨席のご来賓の皆様方には格別の

ご支援・ご協力をお願い申し上げます。との決意表明があった。続いて、議事の審議に入り議長に、山本泰義氏(静岡支部)、河合一郎氏(焼津支部)が選任された。

提案された第一号議案(二十八年度事業報告)については、松浦副理事長が説明され、続いて第二号議案(二十八年度会計決算関係)は、鈴木主任会計、佐藤会計理事から説明がされ、また、大久保監事から監査報告がなされ承認された。

日新製鋼
日鉄住金鋼板株式会社
株式会社 釜慶マクサプライ
〒435-0041 静岡県浜松市東区北島町757
TEL 053-423-0007
FAX 053-423-0010

次に第三号議案(二十九年度事業計画案)については、林理事長が説明し、第四号議案(二十九年度予算案)については、鈴木主任会計が説明して承認された。次に第五号議案(借入金最高限度額及び取引金融機関の決定)を林理事長が説明し、承認された。

次に第六号議案(役員改選の件)役員選考委員六名を選定し、理事長の指名推薦を行った結果、新理事長に松浦源氏が選任された。

表彰状等の授与

通常総代会において、静岡県板金工業組合の役員として引き続き6年以上組合発展のため取り組まれ退任された林紀明（前理事長）他三名及び多年にわたり事業活動に熱心に取組まれ、組合発展に尽力された八名の皆さんに、理事長から表彰状と記念品が授与された。

表彰式終了後、清水支部の青野力さんから受賞者を代表して謝辞があった。

退任役員表彰

- 林 紀明（理事長）
 - 野村 和稔（副理事長）
 - 金原 政美（副理事長）
 - 枚野 久男（常任理事）
- （敬称略）



県板功労表彰

- 三島支部 炭山 道弘
- 富士支部 五十嵐伸介
- 清水支部 青野 力
- 清水支部 柴田 稔己
- 清水支部 望月 昇
- 小笠支部 山下 英
- 中遠支部 鈴木 直人

浜松支部

岩崎 則幸
（敬称略）



県板団体保険感謝状

多年にわたり団体保険に加入いただき、組合の共済事業への協力に感謝し、次の四名の皆さんに理事長から感謝状と記念品が授与された。

- 伊豆支部 黒田 昭彦
 - 御殿場支部 渡邊 文雄
 - 富士宮支部 南條 澄子
 - 小笠支部 鈴木 孝司
- （敬称略）

全板茨城大会 六十二名参加

県板事務局



第六十九回全国建築板金業者大会が、五月十八日（木）茨城県の「ひた

ちなか市総合運動公園内総合体育館」で開催され、全国から約三千五百名余の同業者が参加し、本県からは事務局長を含め六十三名が参加した。

大会では、「半世紀の歴史を礎に、輝く未来を切り開く！」を総合テーマに、目標として「登録基幹技能者の更なる地位向上と正当な評価を獲得しよう」、「非組合員の加入促進と社会保険加入促進を図ろう」、「責任施工保証制度で業界の信用を確固たるものにしよう」、「指定商品は全ての組合員が積極的に活用しよう」、「業界の国保・年金基金で福利厚生を充実させよう」、「次世代の更なる飛躍のために後継者の育成強化を図ろう」などが大会宣言として、力強く宣言された。

また、大会の表彰式では、本県から富士宮支部の鈴木文雄氏と小笠支部の枚野久男氏が功労章を受賞された。

全板連茨城大会に参加して

小笠支部 枚野久男

この度、第六十九回全国建築板金業者茨城大会において功労表彰をいただきました。

創業以来親子二代で業務を行い早七十年になります。

この節目に当たる記念すべき年にこのような表

彰を頂きましたことは身に余る光栄と心から感謝申し上げます。また、組合の諸先輩方にご指導をいただきましたが、すべての資格を習得できましたことも心から感謝申し上げます。



その他にも組合の役員を経験させていただき多くの組合員の方々を知り、新施工法、施行材料及び金物店等多くのことを併せて勉強させていただきました。

このことについても大変感謝いたしております。今後は、少子高齢化が進み住宅環境は大変厳しい時代となつて来る事が予想されます。折から組合員の減少及び後継者不足などは多少やむを得ませんが、私たちが取得した技術を後世に伝えて行くことは、諸先輩方への御恩返しと建築板金業界へのささやかな義務を果たすことだと考えておりますので、この度の受章を機に板金組合及び板金業界の発展の為に微力ではありますが、尽力いたします所存であります。

また、三年後に行われる全板静岡大会には微力ながら誠心誠意尽力いたす所存であります。皆様ありがとうございます。

技能検定実技試験講習会

県板事務局

二十九年度技能検定実技試験に向けて、実技講習会が、六月三日（土）六月四日（日）、の二日間清水技術専門校で開講された。

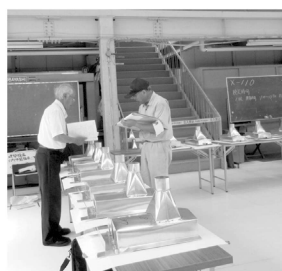
今年度の受講者は、一級十八名、二級二名の計二十名で、昨年より八名減少した。

指導に当たった十一名の技術検定委員及び補佐員からは、受講者の真面目な態度、熱心さを評価する声が多く、緊張感溢れる講習会となった。

松下委員長からも、時間内に全員仕上げまで行かなかつたので、実技試験日まで追加講習会が必要との講評があり、今後、中・西の各地区で追加講習会を行う必要性が確認された。



これを受けて、各地区委員は六月下旬までに臨時の実技講習会を開催した。



技術検定委員長は、七月十日の実技試験本番には、全員が努力の成果を遺憾なく発揮して、良い結果が得られることを期待するとコメントした。

なお、職能協が主催する技能検定実技試験は、予定通り七月十日（月）に実施され二十六名が受験した。

今後は、八月二十三日（水）、二十四日（木）に静岡労政会館において学科講習会を開催する予定である。

技能競技大会の開催

技術検定委員長 松下隆満
今年度の技能競技大会

は、十月一日（日）に清水技術専門校で開催される。

課題作品については、Aコースは「ちりととり」で昨年と同じだが、Bコースは、「水差し」（今年度の大会の課題も「水差し」であるが、今年度の物ではなく、以前の課題で難易度の低いもの。）に変更されることとなった。



競技大会参加者を対象にした事前講習会は、八月二十七日（日）清水技術専門校で開催される。

入賞者は県知事等から表彰され、またBコース優秀者二名以内は、三十年二月下旬に富士宮市で開催される全国大会へ出場することとなる。

技術検定委員会では現在、七月下旬を期限として参加者を募集しているが、参加者の年齢制限は廃止されているので組合員、後継者及び従業員等多数に参加し技能を競うことが業界全体のレベルアップに繋がると期待している。

今年のBコースの「水

「差し」は展開図等詳細図面について、技術検定委員長が主体となつて、検討を重ねているが、完成したおり、各支部に配布する予定である。

小・中学生の「まぐり」体験学習指導

県板事務局

静岡県職業能力開発協会は、厚生労働省認定の「まぐりマイスター」派遣事業として、県下東部・中部地区の小・中学校生等の児童生徒に対する「まぐり」体験学習（魅力講座含む）を実施しています。



今年度は昨年より四箇所少ない、九箇所となっています。

体験学習を実施する全箇所で先生方に「まぐり作業」を説明するため、「魅力講座」を加えると、今年度は、十八箇所で開催し、体験学習を実施することとなります。

この事業は、各技能士会に所属する「まぐりマイスター」に対して、依頼されるもので、各技能士会では、マイスターの

皆さんにお願いし、限られた人員の中で本業と、この派遣事業を大変な努力と犠牲を払って実施しているのが実情です。

この他にも、八月中旬に「ツインメッセ静岡」で行われる「県ものづくりフェスタ」や各訓練校の技能祭、各地区のものづくりフェスタへの参加等めまぐるしく出展、指導の機会が連続的に展開されていきます。

元より美しい輝きを放つ銅板細工は人気があり、児童・生徒からの要望も多く寄せられているようです。

しかし、現員のマイスター二十三名では、今後西部地区及び伊豆地区にまで拡大していくと見込まれる体験学習の実情に対応するのは難しく、今年度、実施個所の多くを占める中部地区を中心に、なお数名のマイスターを新たに認定登録することによって、各マイスターの負担を軽減し対応しようとしています。

職能協では、昨年度から、ものづくりマイスターの派遣事業が本格化しており、今年度は若干縮小傾向はあるものの、若年層に引き続き、全県規模で事業展開を図っていく計画があるようです。

組合ではものづくりマイスターの地域バランスを考慮しながら八月から九月にかけて認定申請を

進め十分な体制をもって対処していくこととしており、マイスターの方以外の各支部の皆さんにも補助指導員としてのご参加をお願いする機会があるかと思っております。その節はご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

清水支部 『盆総会』を開催

清水支部長 伏見一雄



毎年夏の恒例であります「清水支部・盆総会」を、七月十五日（土）「清水サントリーホテル」にて盛大に開催しました。

来賓は衆議院議員望月義男先生を始め、県議会議員・市議会議員の先生方及び各メーカーの皆さん方、多数にご参加いただきました。

式次第は例年の通りでしたが私から来賓の皆様へ清水支部の松浦源さんが今年度の静岡板金工業組合新理事長に就任した事を報告し、二〇二〇年のオリンピック開催の年に全国板金業者静岡大

会が開催される旨、大会に際し皆様方それぞれのお力添えを頂ければお願いいたしました。この大会は、全国から板金業者四千人余りの方々が静岡の地を訪れることとなり、静岡のPRには最適であるということも話させていただきました。挨拶の後、それぞれのテーブルに向き、清水支部として、松浦理事長を援護し、あらゆる面で協力できるよう準備をしておいていただくよう組合員全員をお願いして回りました。

今回の盆総会は仕事の事は勿論ですが、全板静岡大会に向けて、県の上層役員の方々ほどのように進めていくの自分たちはどのようなことをしていくのか、などと質問攻めでしたが、今までの盆総会とは違い、様々なことに積極的な意見が出てきたことをとても嬉しく頼もしく感じました。

若い人たちが意見を出し合い、協議して、皆が活動できる体制を考えただけでもいいと思います。イベントに興味がある人や隠れた才能の持ち主が現れるかもしれません。ちよつと冒険してみてもいいのかもしれない。今後の静岡板金の躍進に繋がる様希望します。

暑い夏の中の盆会でしたが、とても良い総会だったと思います。皆様本当にありがとうございます。皆様本心からのご声援をありがとうございました。

「随筆」

富士支部 野村和稔

板金組合の役員を引退して時が過ぎた。事務局から計画表が送られて来るが、今の自分に関わる行事は見当たらない。

五感で感じられるものは何と言ってもリアルである。日本のある文学者が言っていた。その作者の詩「座右の銘」。前に……暮らしては分が大事です、気楽は何より薬です。とある。「嫉

む」とはジェラシー。何ともいやなものだが、心の働き色々あれど、その使用頻度はすこぶる多い。

それは端的に言って、私たちの日常が、比較の中で営まれているからだ。私たちは何故か、俺は俺・私は私とはいかない何かにつけて他と比較するのだ。

人は皆、おおかた自己中心的だが、実は絶えず他の何者かに揺さぶられているものだ。次の川柳が鋭い「隣の家に蔵が建ちゃワシや腹が立つ、あなうれし隣の蔵が売られてゆく」同じはずだが、お隣が急に懐具合が良く

なつた。と言つても、けしからんと怒鳴り込むわけにもいかない。怒りは内向にして、どす黒い嫉妬の鬼と化す。がそのうち、お隣もあえなく没落。自ずと溜飲も下がって、実に愉快……。こんなには他の動向に振り回されていいの。心は乱れるし、溜飲と共に品格も下がるというのだ。

分とは「他と比較しない自分」ということ。少し時間が取れたので、はしたないが、こんな物を書いてみた。



保証経営委員会を開催

保証経営委員会が、7月21日（金）13時30分～静岡労政会館で開催され、松浦理事長、中村委員長を始め17名が出席し依然として厳しい経営環境の中、責任施工保証事業の現状、建築板金における経営環境及び第72回全板静岡大会の推進体制等について活発な意見交換等が行われた。

1. 保証経営事業の現状

責任施工保証制度について、全日本建築板金保証センターの資料に基づき、現在の施工保証書の発行状況を確認し、本県組合の保証書発行状況は、他県に比べて決して多い方ではない。また、現在の保証の実態を考えると今後も大幅な増加は望むべくもない等の厳しい現状の説明がなされた。反面、実効性は薄いものの、発注者からの信用を得るには効果的な制度である。

また、保証の補完機能として全板連扱いのPL保険等の補償保険は保証の後ろ盾として不可欠である等の説明が事務局からあった。

2. 建築板金における経営環境について

(1) 県・市町村等公的助成制度

住宅を新築（リフォームを含む）・購入したい人等に対する各種公的助成制度について県内全域の適用状況を事務局から提供した。また、上記以外にも各市町村等独自のリフォーム等補助事業制度も実施されているので、注目していく必要がある。

公的助成制度を理解することによって仕事の範囲も広がるので、営業活動などに極力活用していただきたいとの説明が事務局からあった。

(2) 資材単価及び施工単価の現状

事務局から、公共工事労働単価の静岡県及び国土交通省の資料及び公共建築工事の設計資材価格表を提供し、部長からそれぞれの地域の状況について説明があり、労働単価の現状や地域の実態、資材単価などの現状について意見交換がなされた。

委員からは、ハウスメーカーからの施工単価は極めて安いが、建築板金における県の設計単価が近年に比べ明らかに上昇しており良い傾向で有るとの意見があった。

3. 第72回全板静岡大会の推進体制について

事務局から大会経費の収支概算表及び同表の説明、推進会議設置要綱並びに各委員会業務内容が提示され、各委員会の役割分担や保証経営委員会の役割が説明され、大会の成功に向け全員で協力することが確認された。

また、現在、本県組合と全板連との間で大会実施日について調整中であり、近日中に決定したいとの説明が事務局からあった。

全ての議題を終了し、14時40分に閉会した。

